

ある精肉店のはなし



いのちを食べて

いのちは生きる

ほりりのしま
『祝の島』につづく
はなぶさ
額額あや監督作第二弾

プロデューサー: 本橋成一 製作: やしほ映画社、ボレボレタイムス社



釜山国際映画祭
ワイドアングル部門
正式出品作品



山形国際ドキュメンタリー映画祭
日本プログラム部門
正式出品作品



文化庁映画賞 文化記録映画大賞受賞
第5回辻静雄食文化賞受賞



助成: 文化芸術振興費補助金

牛の飼育から屠畜解体まで、
いのちが輝いている、
前代未聞の優しいドキュメンタリー。

鎌田 慧 (ルポライター)

大阪貝塚市での屠畜見学会。

牛のいのちと全身全霊で向き合う

ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。

家族4人の息の合った手わざで牛が捌かれていく。

牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。

店に持ち帰られた枝肉は、

丁寧に切り分けられ、店頭で並ぶ。

皮は丹念になめされ、

立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。

家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。

家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは

被差別部落ゆえの

いわれなき差別を受けてきた父の姿。

差別のない社会にしたいと、

地域の仲間とともに

部落解放運動に参加するなかで

いつしか自分たちの意識も変化し、

地域や家族も変わっていった。

2012年3月。

代々使用してきた屠畜場が、

102年の歴史に幕を下ろした。

最後の屠畜を終え、

北出精肉店も新たな日々を重ねていく。

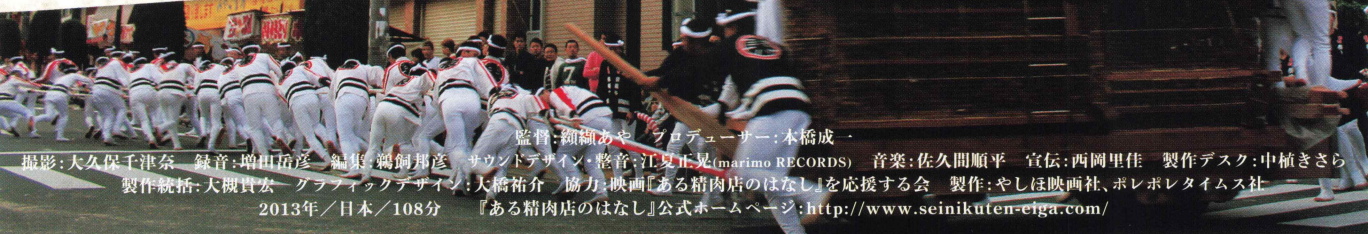
いのちを食べて人は生きる。

「生」の本質を見つけてきた家族の記録。



北出さん家族と一緒にいるときも、
地域にいるときも、私は大きな安心感
に包まれていた。生まれ出た場所で、
自分が自分として生きること。それを
考え抜き、生き抜いてきた彼らは、
しなやかでありながら揺るぎなく、
そして果てしなく慈愛に満ちていた。

監督：瀬瀬あや



監督：瀬瀬あや プロデューサー：本橋成一

撮影：大久保子津奈 録音：増田裕彦 編集：鶴岡邦彦 サウンドデザイン・整音：江夏正晃(marimo RECORDS) 音楽：佐久間順平 宣伝：西岡里佳 製作デスク：中植きさら
製作統括：大槻貴宏 グラフィックデザイン：大橋祐介 協力：映画「ある精肉店のはなし」を応援する会 製作：やしほ映画社、ホレボレタイムス社
2013年／日本／108分 『ある精肉店のはなし』公式ホームページ：<http://www.seinikufen-elga.com/>

11月27日(土)～12月3日(金)

2021年も“いい肉の日 11.29”
アンコール上映します！

東京 ポレポレ東中野

TEL: 03-3371-0088
www.mmjp.or.jp/pole2

↑連日19:30～

*11/27(土)・11/28(日)・11/29(月)
上映後に監督舞台挨拶あり

本作はDVD化されていませんのでこの機会をお見逃しなく！

大阪 第七藝術劇場

TEL: 06-6302-2073
www.nanagei.com

↑上映時間は劇場にお問い合わせください